

牛久：学校周辺に見る自然

第15号 牛久二小、牛久自然観察の森、水戸市、稲敷市

2015年11月22日発行

＜ 初冬の花、ヤツデと、そこに集まる虫たち ＞

みなさん、こんにちは。今回は、晩秋から冬にかけて咲く花、ヤツデと、そこに集まる虫たちを紹介いたします（写真は昨年と今年11～12月に、水戸市、稲敷市、牛久自然観察の森、牛久二小で撮影）。

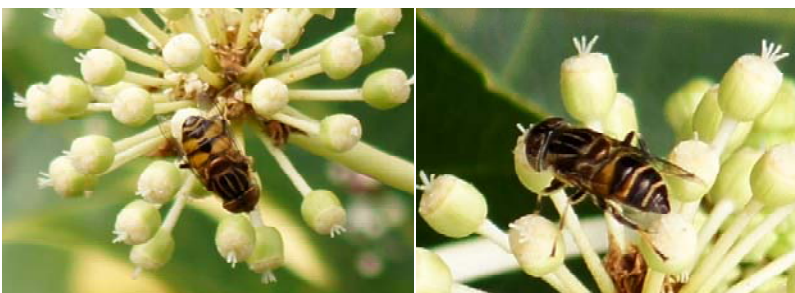


鳥が実を食べ、フンと一緒に出された種子によって広がるヤツデ。日本固有種で、晩秋～初冬に開花(左)。
雄花期の花で蜜をなめるツマグロキンバエ(右)。その上の花は雄しべも花弁も落ち、雌花期が過ぎようとしている。

ヤツデは私たちの周りではよく見かけますが、日本にしかなく、茨城県が分布の北限だそうです。そして、花粉を運ぶ昆虫の少ない晩秋～冬に花を咲かせます。なぜ、活動する昆虫の少ない冬に？と思うかもしれませんが、そこはヤツデの戦略で、この時期に咲く花も少ないから逆に昆虫を一人占めできるというわけです。さらに、この小さい一つひとつの花を継続して観察すると、おもしろいことが分かります。茎のてっぺんに小さい花が集まったピンポン玉のようなかたまりがいくつかついて花を咲かせますが、咲く順番が決まっています、始め雄しべが伸びてはたらき蜜を出して昆虫を集めますが、やがて花弁も雄しべも散ると今度は雌しべが伸びてはたらき再び蜜を出し昆虫を集めるのです。



雄花期の花で蜜をなめるホソヒラタアブ(左)と、雌花期の花で蜜をなめるホソヒラタアブ(右)。



雌花期の花で蜜をなめる、キゴシハナアブのオス(左)とメス(右)。

こうして別の花の花粉を受けると、よい種子ができます。

少しでも晴れて暖かくなると、どこにいたのかハエやハナアブの仲間を中心に成虫で冬越ししていた昆虫が集まり、蜜をとり花粉を運んでくれます。



めばなき みつ
雌花期の花で蜜をなめるオビキンバエのメス(左)と
キゴシハナアブのオス(右)。



めばなき みつ
雌花期の花で蜜をなめるナミハナアブ(左)とキゴシ
ハナアブのオス(右)。



めばなき みつ
雌花期の花で蜜をなめるアカタテハ(チョウの仲間)。



めばなき みつ
雌花期の花で蜜をなめるオオハナアブ。



めばなき みつ
雌花期の花で蜜をなめるトリバガ科(ガ)の仲間。



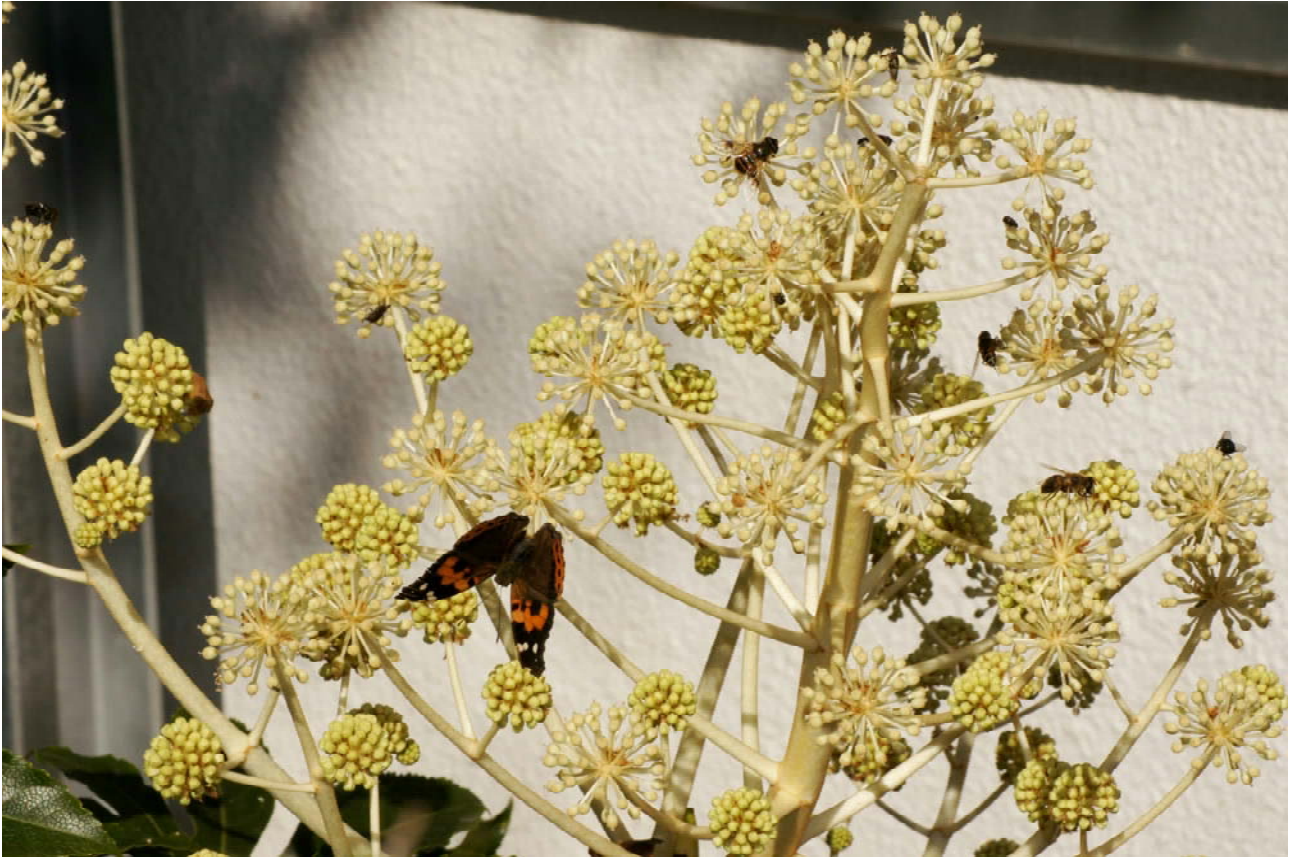
めばなき みつ
雌花期の花で蜜をなめるホソヒラタアブ(左)と、
それをねらうコハナグモのメス(右)。



ヤツデの花で、えものを狙うオオカマキリ。

花の蜜を求めてやってくる昆虫がいれば、それをねらってやってくる虫たちもいます。早い時期なら産卵期のカマキリ。ま冬でも、クモなどがかかれていますよ。ご用心、ご用心！

食べられちゃかわいそうと思うかもしれないけど、カマキリやクモだって食べなければ生きていけないし、卵を産むこともできない。そしてこの「食う-食われる」の関係が、自然のバランスを保つのに役立っているのです。



ヤツデの花で、蜜をとる昆虫^{みつ こんちゅう}たち。さて、この写真の中に全部で何匹いるでしょう？

では、最後にクイズです。上のヤツデの花には、たくさんのハエやハナアブなどが来て、蜜をとっています。全部で何匹いるでしょう？ 下の答えを見ないで探してみましょう。



答はハエが7匹、ハナアブ4匹、チョウが1匹で全部で12匹でした。いくつ見つけれられましたか？
は 晴れた暖かい日に、近くにヤツデの花が咲いていたら探してみましょう。 【理科支援員：宮内】